



ピースアクション in ヒロシマ

レポート

安野 麻美

2025 年 8 月 4 日～8 月 6 日

1. 参加のきっかけ、動機

過去に原爆ドームや資料館を見学したことはありましたが、実際に被爆者の方のお話を直接聞いたり、碑めぐりをしたことはありませんでした。原爆投下から 80 年という節目の年に、子供と共に平和の大切さや原爆について学びたいと思い参加させて頂きました。また、この広島訪問を通して、自分がこれからどのように平和のために行動できるのかを考えるきっかけにしたいと思いました。

2. ピースアクションの内容と印象に残ったこと

①被爆の証言

まず被爆者の山田寿美子さんから当時の体験談をお聞きました。当時まだ幼かった山田さんですが、原爆投下後の生活の困難さを、一言一言丁寧に私たちに伝えて下さいました。「80 年前の事を今の事として考えてほしい」という言葉が、とても印象に残りました。



②碑めぐり

ボランティアの方の案内で、碑めぐりを行いました。原爆ドームは広島県物産陳列館として建てられ、オシャレで近代的な建物として、人々に親しまれていました。しかし、原爆投下によって、その姿は一変し、瓦礫と化した無残な姿になり、見るに堪えない惨状になってしまった、というガイドさんのお話が印象に残りました。

また、平和の灯は、点火されて以来ずっと燃え続けており、「核兵器が地球上から姿を消す日まで燃やし続けよう」という願いが込められているという事を知り、この火が一日でも早く消える日がきてほしいと強く思いました。



③平和記念資料館見学

目を背けたくなるほどの惨状を記録した写真の数々に胸を締めつけられました。子供にこの現実をしっかり見てほしいと強く願う一方で、日常の生活からは想像もできないほど悲しい光景を、幼い心が受け止められるかという葛藤がありました。それでも、核兵器がもたらした惨状は大人から子供へと伝えていかなければならないと感じました。



④虹のひろば

日本被団協は、「No More Hiroshima, No More Nagasaki, No More War, No More Hibakusha」という言葉を掲げて、核兵器のない世界を目指して国外で活動が続けています。このような尊い活動は平和の大切さを次世代へと繋げていくためにも欠かすことのできないものだと感じました。

また、「核兵器がゼロにならない限り、戦争は終わらない」という濱住さんのお言葉は、胸の奥に重く響きました。どこかの国に核兵器がある限り、また 80 年前の悲しみが繰り返されるかもしれません。だからこそ、核兵器のない未来を信じて、願い続けることをやめてはいけないと思いました。

そして、虹のひろばでは、若い世代による平和活動の紹介がありました。真っ直ぐな思いで平和活動に取り組む姿に感動しました。その優しさと行動力が未来を変える大きな力になると信じています。



⑤平和記念式典

原爆投下から 80 年という節目の年ともあり、国外から多くの方々が参列されていました。式典は厳粛な空気の中にも一人一人の平和への願いが確かに伝わってくるような雰囲気でも、とても貴重な時間を過ごすことが出来ました。

また、松井市長の平和宣言の中で、「たとえ自分の意見と反対の人がいてもまずは話をしてみることが大事である」という言葉がとても心に響きました。小さな日常でも、誰に対してもしっかりと向き合って言葉を交わす姿勢を大切にしていきたいと思いました。



3. まとめ

ピースアクションに参加して、広島での学びは、心に深く残るものでした。悲しい現実を知るたびに胸が苦しくなったと同時に、まだまだ自分が知らない現実があることにも気づかされました。今後も平和とは何か、核兵器とは何かについて学び続けていきたいと思います。

また、日々、穏やかに過ごせる日常があることの幸せを感じながら、子供たちの未来が笑顔と希望であふれる世界でありますようにと願っております。

最後に、3日間引率して下さったパルシステム千葉のみなさん、大変お世話になりました。貴重な経験と楽しい思い出をありがとうございました。



広島で学んだこと

安野 光祐

ぼくは、原爆のことを知りたくて、広島へ勉強しに行きたいと思いました。

まずは、被爆者のお話を聞きました。その方は、どんなに大変な思いをしたかを話してくれました。いままゐしらなかった悲しい気持ちも伝わってきました。もう二度と同じことが起きてほしくないと思いました。つぎは、碑めぐりをしました。公園には、

原爆で亡くなった人たちの名前がきかれました。せきみや、世界の平和をねがうせきみや、ありました。ひとつひとつのせきみやを見て、いとたゝさんの人が悲しい思いをしたことが伝わってきました。

そして、平和記念資料館を見学しました。原爆でこわれた建物や、ゐかいを受けた人々の写真やいゝ人展示されていて、とても悲しい気持ちになりました。

また、平和記念式典に参列しました。たく

さんの人たちがもうする時間はとても静
かで平和へのわがいかなくなった人にとどく
ようでした。

今回広島で学んだことをあすれず、平和な
世界が続くように自分にできることを考えて
行動していきたいと思いました。

戦後80年は色々な側面から大きな節目であると感じている。

■子供達がテレビを見なくなった

我々が子供の頃は、テレビや新聞くらいしか情報を得るメディアがなかった。学校に行くと、昨日のテレビの話題等の共通の話題で盛り上がったものである。現在はどうか？子供達は主にyoutube等の動画サイトで好きなコンテンツを自ら選択して視聴している。人気のチャンネルはあるものの、クラスみんなが共通の話題で盛り上がることは少ないらしい。つまり、昔は教育の一端を担っていたテレビが見られなくなったことで、お盆の時期にきまって放映されていた戦争の番組やアニメを見る子供達が減っている。戦争に関する番組は子供達にとっては面白いわけがなく、自らの意思でそのようなチャンネルを探しに行く子は多くない。戦争に関する教育の時間は学校の道徳の時間くらいしかないので、インプットされる情報量は昔に比べて大きく減少している。

■声が大きいものが勝つ時代

7月に行われた参議院選挙。参政党が若者の支持を得て大躍進を遂げた。参政党が良いか悪いか、正しいか間違っているかはどうでもよく、党首の神谷氏の演説は若者にとって耳障りが良かった。色々な情報が飛び交う中で、スパッと竹を割ったような演説が心に刺さる。その内容に整合性や妥当性があるとなかろうと。これは場合によっては非常に危ない。極端な意見が支持される可能性がある。今後、危険性をはらんだ大胆な発言をする指導者が現れる可能性も否めない。だから正しい情報のインプットは重要になってくる。

戦後90年、100年になると、戦争を経験した人がこの世に存在しなくなり、戦争に関して語られる内容の解像度は低くなっていくことが考えられる。このような節目の時期に、広島を訪れて色々な生の情報をインプットし、戦争について考えることができたことは、子供達にとって大きな価値になると思う。今は「原爆ってすごい威力だったんだな」くらいの感想であっても、大人になり何かしらアウトプットする場面に出くわした時に、自分の目で直接見て、肌で感じた情報は大きな価値に繋がると思う。

先日、Xでアンガールズの田中氏の切り抜き動画を見た。

「原爆で地獄のような経験をした日本が核爆弾を持つようになると、あの甚大な被害を受けた日本が持つなら我々も持ったほうが良いだろう…というように考える国が増えるのではないかと涙ながらに語っていた。

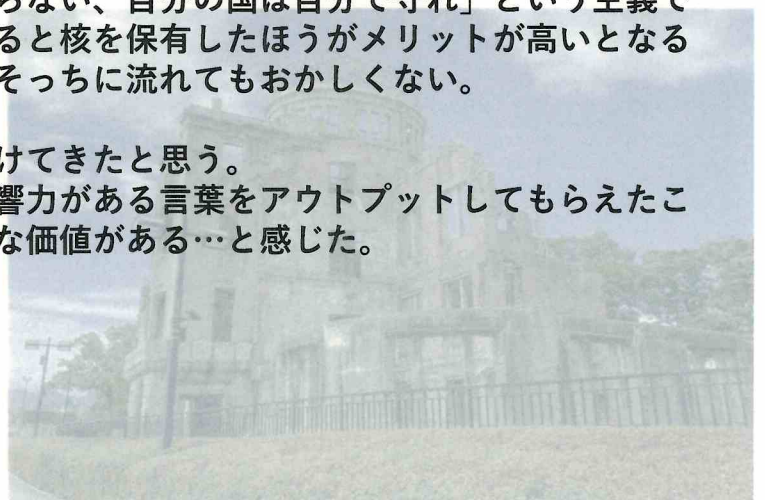
核兵器を保有している国は多いが、戦後80年間は一度も使用されていない。

保有国は自らの国を守るために持っている。今までの日本はアメリカに守ってもらえた。しかしトランプ大統領は「他国のことは知らない、自分の国は自分で守れ」という主義である。感情論を抜きにして、合理的に考えると核を保有したほうがメリットが高いとなる可能性はあるし、今の時代の風潮としてはそっちに流れてもおかしくない。

田中氏は広島出身である。

子供の頃から色々な戦争に関する教育を受けてきたと思う。

大人になりメディアで拡散されるような影響力がある言葉をアウトプットしてもらえたことは、今後の戦争教育に関して非常に大きな価値がある…と感じた。



〔原爆ドーム資料館について〕

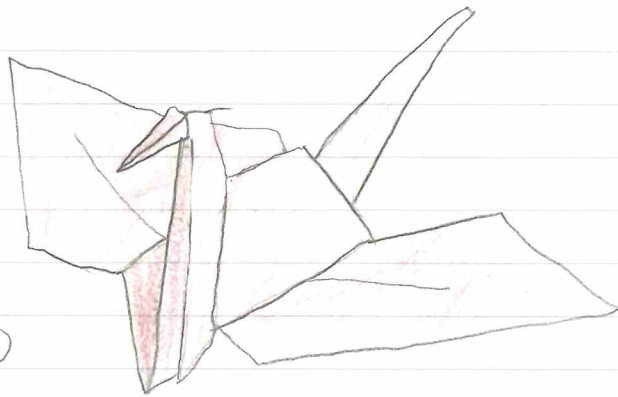
資料館では実際の写真や亡くなった人たちの私物などが
てん示されていて本当に多くの人々が亡くなったということを感じ
ました。原爆ドームを見るとかみゆ状態での原爆のはかい力がわ
かりました。

〔山田寿美子さんのお話について〕

山田寿美子さんのお話は小学校で聞いた被爆者の方のお
話よりくわしく、ショックな内容となっていました。やはり実際に
に原爆が落ちた広島のお話は心にひびきました。

〔まとめ〕

広島と他県での被爆者のお話は少し違うと分かり山田寿
美子さんのお話にもあた通り多くの若者が原爆の事を語りついで
いけないといふなないと思ひました



ピースアクションinヒロシマ 黒川 なる



★参加したきっかけ

学校では学ぶことが無く、自分から学ぶ機会をつくらなければ何も知らないままだと思い、参加してみた

★実際に参加して感じたこと

- ・現地に行ったからこそ体感できたものがあった

絵や写真だけではわからない、原爆ドームの大きさや周りの風景

- ・被爆者の方の話を聞いていくにつれて、私は本当に何も知らないのだなと思った

例として、被爆者の方は戦争のない今は被害はないと思っていたが、いまだ手帳をもらうのに苦労したり、後遺症に苦しんだりしていることなど

- ・ご飯を食べる、安心して寝ることができる、好きなことをやれるなどなど
これらは決して”普通、当たり前ではない”ということ

- ・信じたくないお話ばかりだったけれど事実として受け入れなければいけないということ
私が想像していた以上に悲惨なものばかりで聞いているのも辛かったけど、被爆者の方々がこれからの時代に繋げるために、とても辛い過去を話してくださったから決して無駄にはせず自分にできることを伝えていきたい

- ・今生きていることさえ奇跡なんだということ

戦争では生きると死ぬは常に隣り合わせであり、今日まで生きているのは本当に奇跡なんだなと思った。また、まだ死にたく無くても戦争で亡くなった人は多くいると思うから今ある命に感謝して楽しく生活していきたい

- ・ごはんおいしかったです、☺



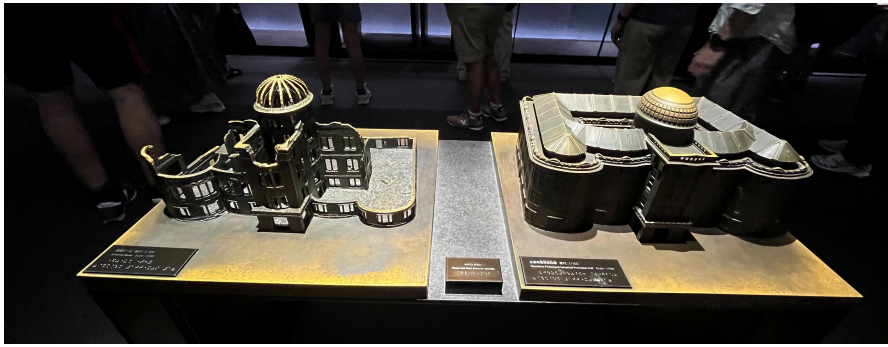
★これからやりたいこと

- ・些細なことにも感謝をする!!
- ・広島に限らず、地元にも戦争に関わる話や学びはあると思うから、まずは地元の歴史もしらべてみたい
- ・家族、友達、先生など私が学んで感じたことを話して、少しでもその人たちが過去の歴史に興味をもつきっかけになればいいな
- ・教職を目指しているので、一個人として生徒たちに教えられるようにもう少し詳しく学んでみたい
- ・いただきます、ごちそうさまでしたの大事さを感じて食事をする

今、自分が生活できているのは誰かの支えがあるから。たとえ些細なことだとしても”ありがとう”の気持ちを忘れずに。できたら声に出して言いたい。ありがとうの言葉がたくさん増えてこの世界が感謝の言葉でいっぱいになったら嬉しいです。



原爆ドームがこんなにおしゃれであり、地下までであると知らなかった



どんなに楽しく遊んでいたとしてもそれを一瞬にしてこわしてしまうものがある
それが核兵器だろう



今、普通にご飯が食べれることは当たり前ではない

”いただきます” の感謝



みなさんと学ぶことができ嬉しかったです(^^)

ありがとうございました!!



またどこかでお会いできれば嬉しいです♪



ピースアクションinヒロシマ

報告者: 黒川ゆき

2025年8月4～6日参加

千葉県館山市在住

ヒロシマへ

私は初めての広島県入り。

神奈川県で生まれ育った私は太平洋戦争のこと、広島、長崎に原子爆弾が投下されたこと、深く学ぶことのないまま親になりました。

2人の子供に恵まれ子育てを行なっていく中で、パルシステムを日々の暮らしに使うようになり【ピースアクション】の取り組みを知りました。

長男が小6、長女が小4の時にピースアクションで沖縄の戦績巡りに参加しました。

日本で唯一の地上戦になった沖縄

現地に出向き、現地を感じることに、沖縄の方々と交流すること、

多くの学びをもらい、次は広島にも参加したいと思っていましたがそこからコロナ禍となり、その夢は叶わないままでした。

そして長男は大学1年、長女が高校2年生になった今年、我が家は娘とピースアクションinヒロシマへ応募しました。

ご縁いただき7年ぶりにピースアクションの参加が叶いました。

中身のぎゅ〜と詰まった3日間。今回も学びの多すぎる日々。

実際に現地で感じ、自分で見て、広島に原子爆弾が落ちたこと。子どものころに裸足のゲンを読んでいたことで戦争の恐ろしさ、残虐さ、原爆の怖さを感じたことを思い出しました。

今回参加して現地で被爆者の方の声を聞くこと

その場に行くこと 現地ガイドさんの話を聞くこと

わかりやすくお話しくださるので

イメージはとても広がり思わず涙する程でした。



2日目 平和公園内で現地ガイドさんによる碑めぐり

日本への原子爆弾投下を決め

当初の投下地点、実際に投下された地点

今回その地を何度も何度も見てきました。

元々広島あの辺りはとても賑やかな人々の暮らしがあった場所。原爆ドームは広島産業奨励館。チェコの建築家が作り、水面に映る姿をイメージして正面玄関の場所が決まった。

大正屋呉服店だったレトロモダンな建物

そんな賑やかな暮らしが広島原爆投下地に存在していたことを初めて知りました。

被爆された方の中には思い出したくない、見たくない、でも辛い傷跡のまま 保存してくれたから

こそ今私たちが原爆投下の恐ろしさを感じることができました。

資料館では原爆投下後の悲惨な状態が私たちに伝わりました。

放射能の力 人間には制御できないエネルギーは瞬時に多くの人の暮らしと命を奪い、そして80年経った今でも放射線症として苦しめ続ける

そして被爆したことを言えない風評

お話を伺った戦争孤児としての貧困と哀しみ

癒えることのない辛さ

人として開発、研究、使用してはいけないと私は思う爆弾が投下された現実を知りました。

建築家の平和への想いがあちこちで形となり表現された平和公園。全身の火傷に水を求めて川へ集まる人々 でも上流から同じように集まる人々、死体で埋め尽くされた川。そして水を飲ませることもできなかった。そのことを想って犠牲者を慰めるための水を流した平和の灯（ともしび）

研修1日目、平和公園の地図を見ていた時に原爆ドームから嵐の中の母子像までが直線上にあることに気がつきました。そして2日目実際に目で見て感じてきました。多くの碑に込められた想い。この場所で80年前に起きた事実、そして80年後の今の広島。

戦後80年 生の声を聞ける時間は残りわずか

このタイミングで参加出来たことは私と娘の人生の中で大きな出来事になりました。

2024年平和公園の近くに建てられた大きくて立派なサッカースタジアム 作るならここだと場所を決めていた。

スポーツは平和だからできる

平和の証だと。

今を生きている私にできること

未来を担う子どもたちが夢を描き暮らしていく、安心して平和な世界を作っていきたい。



今回この活動に参加させていただきたいと思ったのは、高校2年生になる娘に日本で使われた原爆というものを知り、平和について学ぶ機会を作りたいという思いからでした。彼女は小学校時代をアメリカで過ごしたため、日本の歴史、平和教育はほとんど受けられなかったのですが、ちょうど今、将来の進路を考えて色々と動き始めた時期でしたので、何か考えの片隅に残るような経験が出来るのではないかと思ったからです。

私自身は小学校6年生の時に修学旅行で広島を訪問し、当時あった原爆資料館の見学や原爆で片目を失い義眼になった被爆者の講話、千羽鶴の捧呈など体験させていただきましたので、戦時下で広島に起こったことや平和について学び、考える機会がありました。それから30年以上経ち、再び目にしたその場所は、自身の記憶に残るものよりももっときれいに整備され、近代的な建物が建ち、多くの観光者で溢れていました。

しかしながら2日目に碑めぐりを案内していただいた時、まさに自分の立っているところの下には80年前に瓦礫の山となった町がそのまま埋め立てられて平らな土地になっていることを初めて知り、とても驚きました。国立原爆死没者追悼平和祈念館を建てる際に掘り起こされた瓦礫の一部がモニュメントの周りに配されていると聞いてそれを目にした時、とても申し訳なく、何ともいえない灰色の様な気持ちが胸の中を走りました。

慰霊・平和祈念式が行われる、1年で最も人の集まるであろう期間に記念公園を訪問し、式典に参加できたことでたくさんの気づきがありました。それは、式典は広島市が行っていること、多くの国が参列していること、たくさんのボランティアの方が式典運営のために様々な役を引き受けていること、冷たいおしぼりや冷水が無料で配布されていること、大型のモニターが各所に設置され、多くの人々が公園内で式典に参列していること、一般の参列者の中には外国からの方々がたくさんいることなど、式典の際だけでもまだまだ挙げられそうですが、1日目や2日目のプログラムで参加させていただいた、生協連のピースアクションでも本当に多くの方々が平和について考え、日々活動されていることを知りました。

これまでも、戦争はしてはいけない、平和であることに感謝していかないといけないんだ、と自分の中で思うことはありましたが、そう私が思うことができるのは、この80年間、実際に大きな声で平和や、核爆弾を使ってはいけないと訴え続けてきた方々がいてくださったお陰だという事に気づきました。そして、何か自分が出来ることをやっていかないといけないかな、やっていけたらいいなと思いました。

戦争に関して、今まで日々の新聞やニュースで情報を得ているつもりでいましたが、それはとても断片的で浅く、よく考えられていなかったなと反省しました。

今の自分としてはまだまだ勉強不足で、人に平和を語ることは恐れ多いことですが、少しでも自分のできるピースアクションを探し、考え続けていきたいと思います。

まずは私のピースアクションとして、娘とこのピースアクションinヒロシマに参加したことを、褒めたいと思います。そして参加したいと思う娘に育ってくれていることにも感謝しつつ、それを知る機会を与えてくださった方々にお礼を申し上げたいと思います。旅行中も隅々まで行き届いた素晴らしいアテンドをしていただき、酷暑の中でもとても快適に過ごすことができました。お世話になりどうもありがとうございました。

私は今までほとんど平和教育を受けたことがなかったため戦争のことや原爆のことをほとんど知りませんでした。普通小学校で習うような基本的な知識もなく学びたいと思っていた時に母から広島に行って戦争について勉強できるプログラムがあると聞き、参加を決めました。

実際に広島に行ってみて初めて知ったこと、見たものが沢山ありました。被爆者の方の証言で被爆者差別があったと聞き、戦争で苦しんだ方々は皆その苦しみがわかるため協力しながら生きていたと思っていたことは間違いだったと知りました。被爆者かそうでないかで差別が起きていたという事実にとっても驚きましたが、怒りやしんどさを被爆者差別という形で誰かにぶつけないと耐えられないほどつらかったのだなと思いやはり戦争はするべきではないし核兵器もこの世から無くすべきだと実感しました。

また、虹の広場や平和記念式典で自分と同じ年の子達が平和活動をしているのを見て高校生でも平和のために直接被爆者の方のお話を聞きに行ったり自分の思っていることを発信するなどして世界平和のために動いている人は沢山いるんだなと思いました。私は授業の題材として戦争について学んでもその授業で終わりにしてしまっていました。世界平和実現のために自分にできることを考えてそれを人に伝えたり作品として残している人のように、私にも何かできることがあるんじゃないかなと思いました。

さらに、広島ではとても平和教育に力を入れているなと感じました。幼稚園生の頃から絵本で戦争について学んだり授業の一環で被爆体験を聞きに行ったりなど教育課程に平和教育が組み込まれているというお話を聞きました。平和教育は2度と同じことを繰り返さないためにもとても大事なので広島だけでなく世界で唯一の被爆国として日本全国どこでも力を入れるべきものだと思います。教科書や動画で戦争について学ぶことも大切ですが、実際に現地で被爆した方のお話を聞いたり、平和記念資料館に行ったりすることでより一層その重みを感じることができると思います。

実際に広島に行って平和記念公園の下には今もまだ80年前の瓦礫が埋まっていることや平和記念式典の日に学生運動の方々が演説をしていること、核兵器廃絶のための署名をしてもらうために違う県から人が集まっていたり、ガザの紛争を終わらせたいと願って日本で毎日演説をしている人がいることなどを知りました。ついこの間印西市役所に行った時に原爆写真パネル展があり、平和記念資料館のように当時の写真とその写真の説明が並んでいる場所がありました。印西市が恒久平和実現のために活動していることをしらなかったのが驚きました。調べてみると印西市は非核平和都市宣言をしており、また平和首長会議にも加盟しているそうです。広島平和の鐘と同じ大きさの印西平和の鐘というのもあり、8月15日には印西市平和記念式典も行っていたということを初めて知りました。もっと多くの市民が印西市で行われている平和活動を知り、参加できるよう大々的に宣伝すればいいのになと思いました。今回広島で得た学びを無駄にせず、自分の周りにはいる平和活動に興味がある人と話をしたり平和活動に参加したりしたいと思いました。

広島を訪れて学んだこと

住井真奈美

今回、ツアーに参加し一番心に残ったことは原爆ドームを実際に見たことです。それは私が今まで写真やテレビで見てきたものとは全く違い、原爆ドームを目の前にして肌で感じる空気や、建物から伝わる重みに涙が出そうになりました。

分科会では山田寿美子さんらの被爆者の話を聞いて80年前の広島の様子、後遺症やいじめ、差別で苦しんでいる人がいたことを聞き、被爆者の声を実際に聞いてとても考えさせられました。一つの原子爆弾の投下により日常の生活が一変してしまった核兵器は本当にひどくて恐ろしいものだとはよく理解できました。

碑めぐりではガイドの方に当時の原爆ドーム周辺の様子を聞き、ドームの目の前を流れる川には被爆した多くの人が水を求めて行き、そこで命を落とした場所だったということが印象的でした。また、なかでも広島平和都市記念碑の位置が原爆ドームから一直線に建てられていることを聞き、平和記念公園がとても深い意味を持って建てられてことを知り、被爆で亡くなられた方のために作られた場所であり、核兵器を二度と落とさぬよう、同じ過ちを繰り返さないようにと願って建てられた尊い場所だと感じました。

8月6日、平和記念式典に参加し、多くの外国人も参加していたことに驚きました。

以前、テレビである男性の方が平和についてこのようなことを言っていました。「私が伝えることは微力だけど、無力じゃない」と。確かに一人ひとりの平和に対する思いが増えていったら、大きな力になると思いました。今回参加して、核兵器廃絶や広島、長崎についてとても意識が向くようになりました。このツアーに参加できて改めて平和について学ぶことができ本当に良かったです。実際に話を聞いて、継承していくことはとても大事なことだと感じました。自分も微力だけど、何ができるのかを考えるようになりました。

[illegible]

2025.8.4~6
ピースアクションinヒロシマ

レポート作成者 清水康葉

平和だから仕事ができる、勉強ができる、スポーツができる、音楽ができる

今回の平和学習に参加して一番印象に残った言葉である。これを軸に振り返り、報告としようとする。

<被爆の証言>

原爆孤児の方の実際の声は言い表せないほど、一言一言に重みがあり、全ての言葉に胸が締めつけられる気持ちになった。

今でも夢に出てくる壮絶な体験、勉強ができないどころではなく、ずっと孤独との戦いだったこと。戦後、大学まで進学、就職、結婚、育児の最中でも戦争の影響を心の中ではずっと受け続けていること。親に育ててもらっていない悩みは深く、我が子をどう育ててよいか、接し方さえわからなかったこと。被爆者の中には、からだに火傷を負い望んだ仕事にも就けず、部落差別に合い孤独に亡くなった方もいたという。苦しみは永遠に続き、生涯忘れることはない。

だからこそ自身の苦しみを乗り越えて、核兵器廃絶の声を出し続けなければならない。戦後どう生きてきたか被爆者として可能な限り伝える、という言葉が心に響いた。

<今、私たちができることを>

現在の厳しい世界情勢により、他国より優位に立ち続けるための軍拡競争が続き、世論においても武力に頼らざるを得ないという考えが強まっていけば平和な世界の実現は遠のくばかりである。現代の若者が被爆者に直接話を聞ける最後の世代と言われている。思いを形にできる私たちが、人に伝え、SNS発信など様々な方法も効果的に使い人の輪を広げること。決して遠い昔の、無関係な話ではなく自分事としてとらえて行動する。言葉で言うことは簡単ではあるが、行動に移すことが大切である。

2日目の、虹のひろばでは、広島での高校大学、大人を含む平和活動の取り組みを見て、そこに住んでいない私たちでも、可能な取り組みがあることを知った。世界恒久平和の実現に向け...と考えるのはスケールが大きすぎるため、身近な交流によって、平和だからできる、音楽やスポーツなどでの他者と経験や価値観を共有、共感し対話することで、信頼を育み、実感できる安心の輪を広めていくこと。このようなところから、少しずつ実践していきたい。

<終わりに>

このピースアクションinヒロシマでは、次代を担う小中高生の参加者にとって、とても意義深いものとなったことだろう。多くを感じ、学び取ることができる年頃に直接、広島のを訪れ、平和について深く考えたくさんの学び得られたことは、何にも変え難い大きな収穫であった。また、親子での参加であったことも、様々な点を共に心に刻むことができとても有意義な3日間になった。この大変貴重な機会にめぐりあえたことに、心から感謝している。

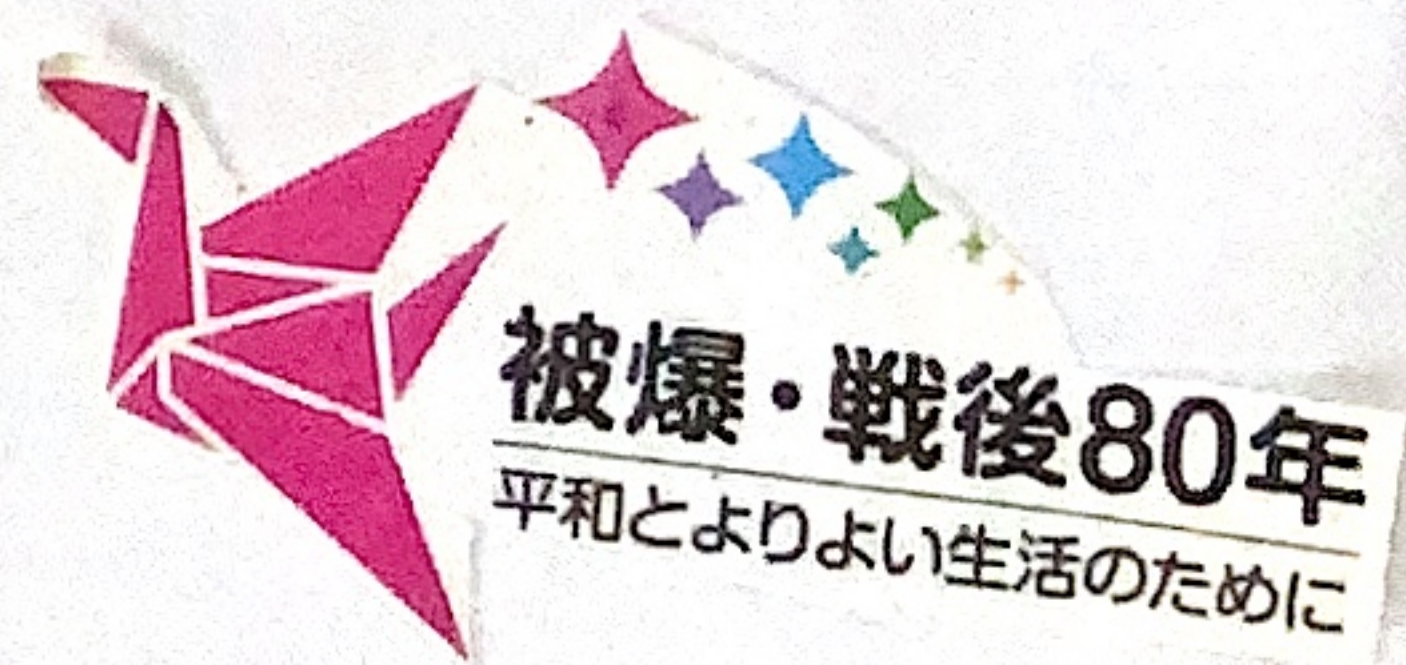
広島を 訪れて



被爆 80年 ヒロシマ から
「核も戦争もない世界」
～世界の平和とよりよい世界のために～



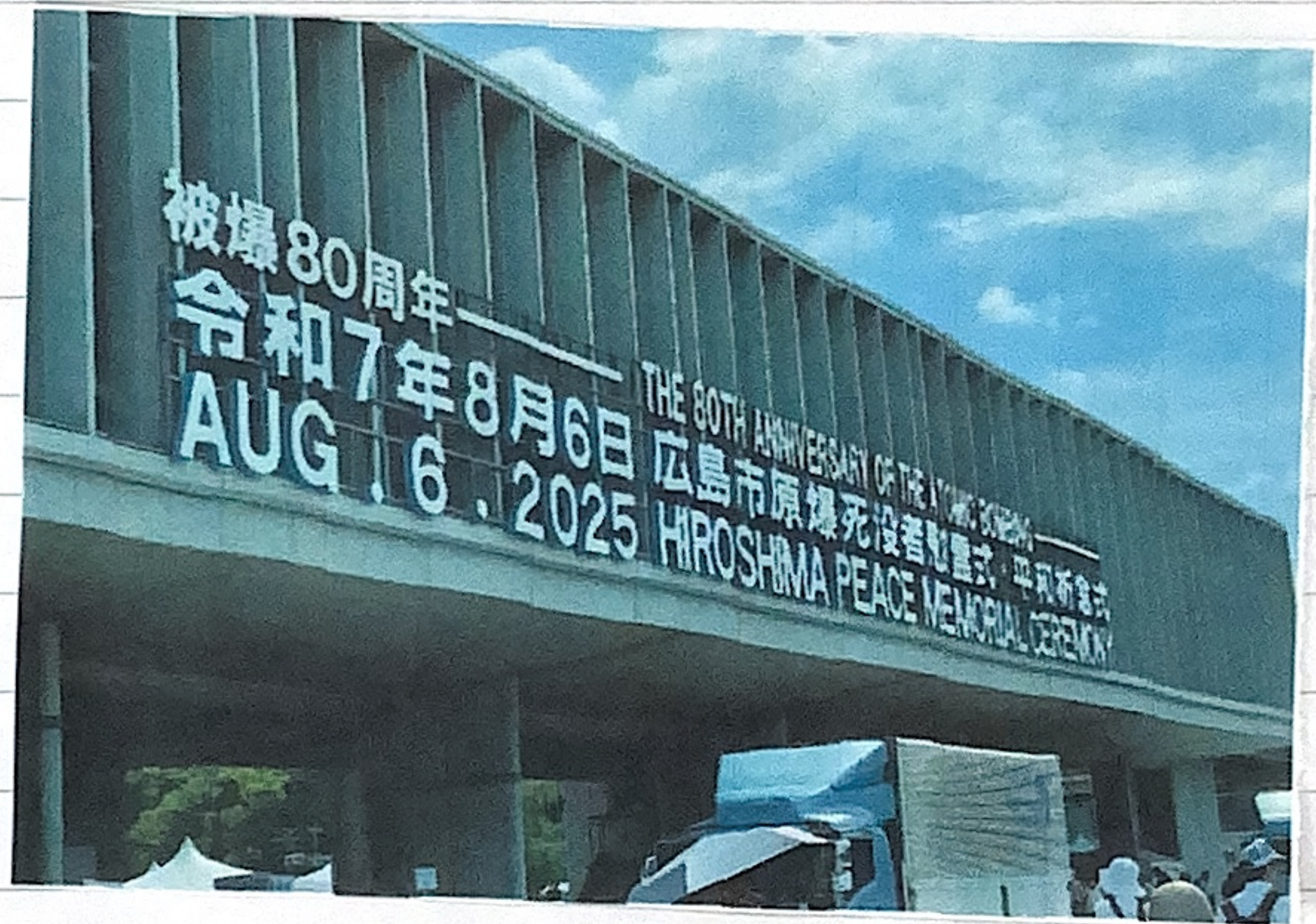
2年D組7番 清水一佑



目次

1 ~ 5 p

- テーマ設定の理由
- はじめに (調べた内容)
- 投下場所
- 原爆による被害
- 使用した理由
- 世論調査
- 考察
- 参考文献
- 実際見て感じたこと
- 被爆者の証言
- 碑めぐり
- 感想



(原爆ドーム)
 ← (広島平和都市) 記念碑
 →



テーマ

① 第二次世界大戦について

③ テーマ設定の理由

8月4、5、6日と、実際に広島を訪れたことで様々な経馬をして、被爆者の方からも話しを聞くことができ、まとめようと思ったため、このテーマにした。

④ テーマに関して調べた内容

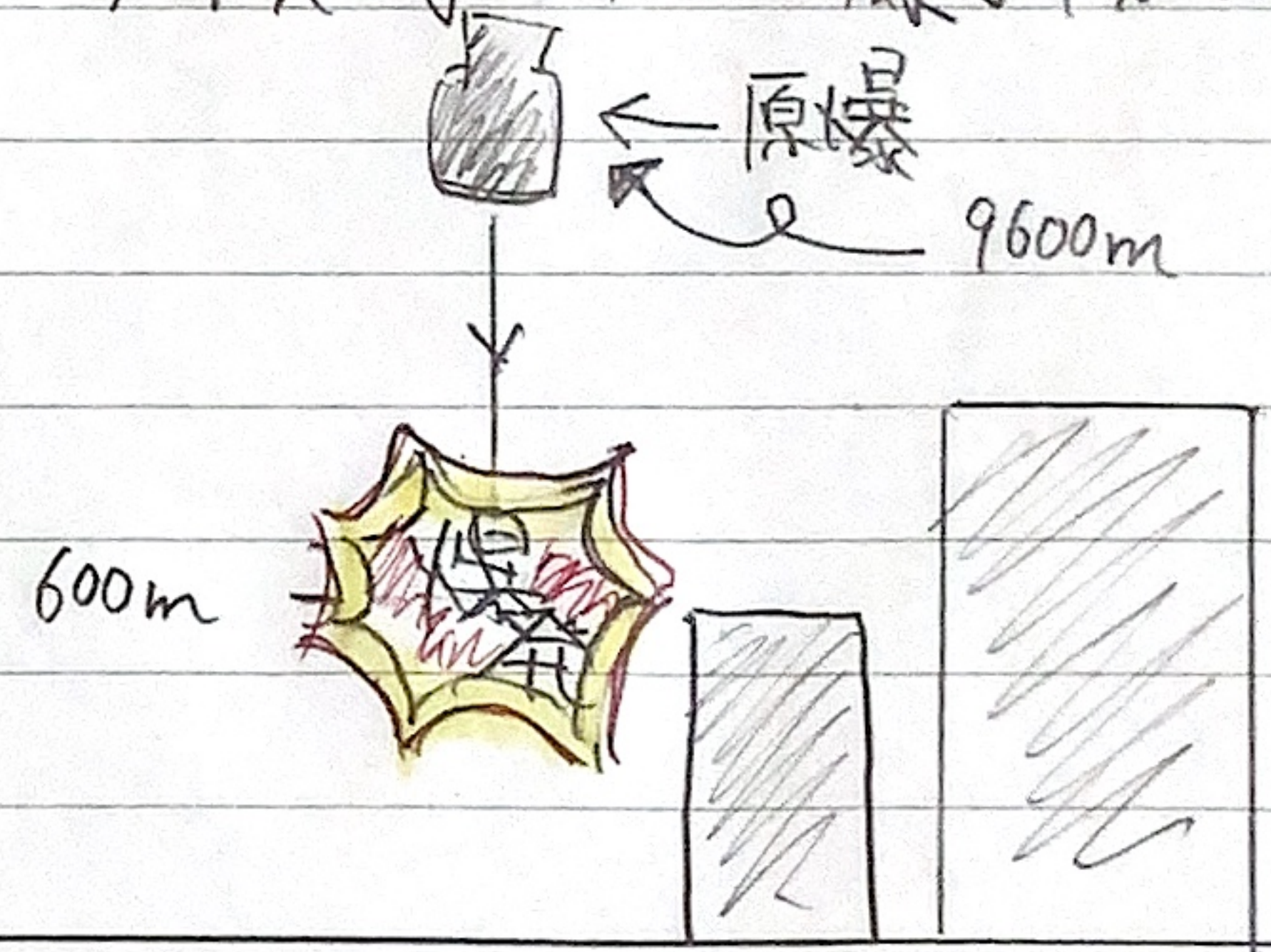
はじめに、

1945 (昭和20)年、8月6日、8:15に人類初の原子爆弾が投下された。

原子爆弾が投下された場所

上空約 9600m

↓
上空 600m で炸裂した



爆球の中心温度は
数百万度

地表面の温度は 3000 ~ 4000度

※1 原子核を利用した非常に強力な爆弾のこと

マグマの温度は1300度なので、はるかに熱い

原爆による被害

大量破壊、大量殺戮が瞬時に、かつ無差別に引き起こされ、後遺症でも人々を苦しめている

投下され、その年の12月末には14万±1万人が亡くなった

原爆が使用されたのはなぜ?

ドイツが降伏し、日本への投下が決まった

当初、日本用に開発しておらず、ナチスドイツが開発することを知り、

アインシュタイン博士らが、アメリカに手紙を書いたことで開発を始め、

ドイツが降伏したため、日本への使用が決まった。

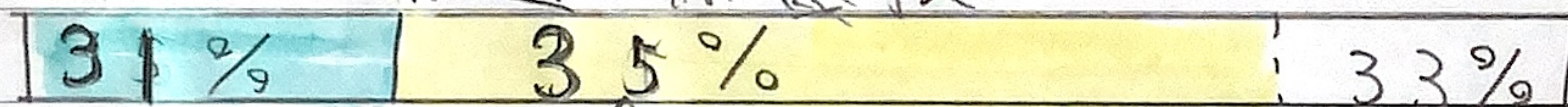
アインシュタイン博士は使用されたとき、心臓の傷があった。

一方で、アメリカが、日本の統治下や占領下にあったアジアの国々では、戦争を終わらせ、多くの人の命を救った。と多くの人が考えている。

参考: NHK 戦争を伝える

ミュージアム

アメリカの世論調査 原爆投下について



正当化されない

される

わからない

参考:ピューリッサーセンター

正当化される年代

- 65歳以上で 48%
- 50歳から64歳で 40%
- 30歳から49歳で 29%
- 18歳から29歳で 27%

↑ 正当化される

複雑な意見が多く、意見が割れている

核兵器の存在現実を受け止め、どうしていくか

核兵器は一発でたくさんの命をうばう恐い兵器で、世界の平和にとってとても危険であり、日本は世界で一つの被爆国であり、その悲しみや恐いさを伝えていくことが大切。

⑤ 調べたことに対する考察

原爆は早く戦争を終わらせるための軍事手段として使われたが、

被害はとても大きく、さらに長期間にわたるため、正当化はできないと思う。

戦争を終わらせるためだけでなく、その後の世界に与える影響を考慮し

平和的解決の必要性を強く認識するべきと考える。

⑥ 参考文献

・碑めぐりガイドブック (全協ひろしま)・米、ピューリッサーセンター・NHK戦争を伝えるミュージアム

実際行って感じたこと

被爆者の証言を聞いて... (山田^{きみこ}寿美子さん)

親せきの家を転々とし、孤児となった寿美子さんは「親見なし子」と言われた。被爆者だから差別を受けたりしていた。戦争後どう生きてきたか、伝えてくれた。被爆者というだけで差別を受け、お金もなく、月当かりで過ごす日々を送っていたそう。私は被爆者として、大変な思いをたくさんしているのに差別されることはとても不思議に思った。

碑めぐりをし...

原爆トーム (広島県産業奨励館) では窓ガラスが割れたのではなく、溶けたことがとても衝撃的だった。原爆供養塔では7万本柱が納められており、引き取り手がいない(氏名がわかっていない)遺骨が813人いるといわれているため、早く引き取り手がみつかるほしいという気持ちがいっぱいだった。

⑦ 感想

私は原爆のことを調べ、実際に行ってみて胸が痛くなりました。多くの人の命が一瞬で奪われ、苦しかったと思うと、戦争の恐ろしさと悲しさを改めて感じました。同時にこの悲劇が二度と起こらないように、平和の大切さをもっと考えていかなければいけないと思いました。私も自分にできることを考え、実行していきたいです。

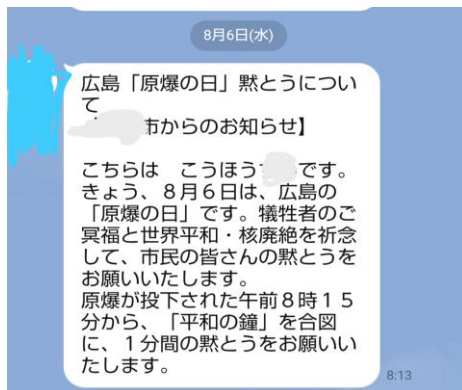


ピースアクション in ヒロシマに参加して

相 奈緒美

1. はじめに

私が生まれ育ったところでは8/6、8/9、8/15には防災無線の合図に合わせて1分間黙とうをする。子どもの頃から興味がなくてもサイレンの意味を皆知っている。中学生の時には市内の中学生を広島平和記念式典へ派遣する事業があり、選抜のための作文審査のために頑張って書いたのに選ばれず、とても悔しかった。



←現在でも続いている

高校の修学旅行で広島に初めて行き、平和資料館を見学する時間が短く不満だった。大人になってから一度広島へ旅行したが、その時も充分に見られなかった。

その後日々の生活に追われていたが、現在の居住地では上記のような防災無線の使い方はしないし、学校での社会科の授業で学ぶ以外に子どもが戦争や原爆について学ぶ場がないと思ったところ、今回の活動のチラシに気がついた。小5の息子にはまだ早いかもしれないし、感受性の豊かな息子にはショッキングな場面もあるかもしれないと思ったが、現在のウクライナやガザのことを考えると知っておくことは必要と感じた。またきちんとした知識がない自分が教えるよりも現地で見ることが良いと思い、息子本人に確認したら行ってみたいとのことで応募した。

2. 目標

- ・被爆者のお話を聞いて想像する
- ・慰霊碑の成り立ちや意味を知る
- ・平和記念資料館の遺物を見て考える
- ・平和記念式典に参加する
- ・息子が原子爆弾とは何かを知り、当時の広島について知る

3. 被爆者の証言を聞いて

分科会の山田寿美子さんも被団協の事務局長濱住さんも被爆時の記憶がないと聞いて、2歳や胎内であったなら記憶がないのは当然であり、記憶がなくとも、被爆したという事実で、その後の人生が肉体的にも精神的にも辛いものでずっと苦しんでいるのが伝わってきた。そのつらいことを話していただくというのが申し訳ないと思うが、それを聞くこと

ができて改めて原爆は肉体的にも精神的にも非人道的な兵器で世の中から無くすべきものだと感じた。ただし、被爆者の平均年齢は 86 歳で、最年少はおそらく 79 歳であると考え、この貴重な証言を直接伺う機会は確実に少ないため、大事に残していくことが必要だと思った。辛いことだと思うが、なるべく多くの被爆者の方に語ってほしいと思うし、それを聞きたいと思う。

また、被爆者手帳の交付はハードルが高く手続きにも時間がかかると思っていたのでなるべく早く申請するものと思っていたが、結婚に差し支えると病気になって初めて申請をした人があるというのにも驚いた。手帳を持っているなら医療費かからなくていいわね、お金がもらえるからいいわねと、被爆者であるということが差別の対象になることを改めて知った。

4. 慰霊碑について

元々は人々が住んでいた普通の町が、原爆の被害にあい、町が一瞬でがれきの山になったために、その場に平和のための公園を作ることになり、生き残った人がまた移動を余儀なくされたり、お寺が移動したり、公園内に慰霊碑が集まったり、慰霊碑を作るにも制限されたりと知らなかったことがあった。



建物疎開のために外で活動していた中学生くらいの子どもたちがたくさん亡くなったことも知った。また噴水など水を使った慰霊碑が多いのは水を欲しがった人が多かったため、その慰霊のためということだった。



5. 平和記念資料館の見学

資料館は三度目の訪問で、以前に見た展示物もあったが、毎回驚かされる。被爆した瓦を触れ、原爆により一瞬で変化したと思うとその威力に驚く。皮膚や爪などの実物の標本は息子には衝撃だったようだ。タッチパネル式の大規模情報検索装置が新たに設置されており、便利だと思った。かなり混雑していてもっとゆっくり見たいと思う。



6. 平和記念式典について

当日公園に入るのに当然だろうが、持ち物チェックが必要なのに驚いた。

テレビで見ていた式典のカメラに写っていないところでは、色々な人が拡声器など使って自分の主張をしており、少し驚いた。式典会場近くではその音も気にならなかったが。警察や市民やいろいろな団体の協力があって式典が成り立っていることが分かった。たくさんの方が式典の様子を見守っていて、多くの人の関心があるのだと思った。



7. まとめ

碑めぐりガイドの斎藤さんが広島に原爆が落とされてかわいそうだ、ひどいというだけでなく、広島が標的になる原因(軍都であり、多くの兵隊が広島から他国を攻めた)があったために結果として原爆投下された、物事には必ず原因があって結果があるとお話していた。いろいろな物事を多くの立場にたってみることは問題解決のために重要な視点であると思う。

松井市長の平和のためには武力を行使するのではなく、根気強くあきらめずに対話することだと仰っていたのが重要だと思った。正直自分一人の力では何もできないし、何も変わらないと思っているが、これから自分になにができるか、今ある平和な生活を守るためには何をしていくか考えていかなければならないと思う。そのための第一歩としてこの活動に参加できたことは貴重な体験になった。

息子にとっては少しショックな展示物を見たので、原子爆弾は恐ろしいと思ったようだ。まだまだ正確な知識を身につけられたとは言えないが、これからより多くのことを学んでいってほしいと思う。

最後にこのような貴重な体験をさせてくださったパルシステム千葉の職員の皆様、一緒に参加された組合員の皆様、快く送り出してくれた家族、そして一緒に参加してくれた息子に感謝いたします。ありがとうございました。



テーマ

5^{ねん}年

1^{くみ}組

なまえ
名前

相陽介

原爆について知ろう。



このテーマを選んだ理由

お母さんから 生きた協のピースアクション in ヒロシマへの参加をすすめられて、ほくも参加して、原爆暴のこにたいしたいと思いたがです。



けん がく たい けん ば しょ
← 見学 / 体験の場所

2025年8月4日(土)まで
平和記念公園とその周
辺のしせつをおとす、ピ
ースアクション in ヒロシマの
分科会に参加したり、
資料館や慰霊石碑を
見学したり、しました。

けん がく たい けん
← 見学 / 体験したもの
① 原爆のいやく、被害に
あたる人はどうな、たか。



原爆暴はここではリトル
ボーイ(写真右)をよかり
しますが、もう一つ「ファット
マン(写真左)」があります。
リトルボーイはちびで、こ
うきで、お重さは4トンあり、



リトルボーイのいなかは、
すさまじく、3、5kmはなれて
たとしても熱線を浴びた
人、まがけどを負ってしまう人も
も、近くにいた人(1、2km以内)
はどうなってしまうのかとい
う器量で当たり死す数知れぬ
死んでしまいます。

原爆をくらった人は、ひふが
たれさか叫、やけどもむ
かつて石です。おかしなものは
ここから、ほしや泉が泳ぎまわ
い雨をきく。雲がふらふらする
そのほしや泉をあひまてコロイ
うひふかやまごころにうまひ、死
可のせいがあります。



さらに、100時間ほど待たな
地面にほしや泉がまがけ
いるので、それにふくま
イドになるよ、それが
それをふまえてたよと
大災害です。

黒い爪 高橋昭博さんは市立中学の校庭で被爆、その時右手人差し指の爪の根元にガラス
片が突き刺さった。以後、黒い異形の爪が生え続けるようになった(高橋昭博さん寄贈)

ピースアクションinヒロシマ

2025.08.04～06

樋口 郁子

はじめに

親子企画とのことで募集が目にとまり、5年生になる息子も考える力がついてきたので心に残る旅になるのではないかと思います。個人で行ってもなかなか直接話を聞いたり触れ合えたりはできないので有意義だと思いました。深い悲しみを携えた土地に降り立つと感ずることもあるだろうと期待していました。

LINE UP

- 1 碑めぐりで感じたこと
- 2 被爆者の方の体験談
- 3 平和記念資料館の見学
- 4 現在を生きる中で



虹のステージにて広島県の基町高校、崇徳高校の新聞部の生徒さんたちの新聞の発表を見て今回の学びを新聞風にまとめてみてはどうかと思った。

1、碑めぐり

室内碑めぐり（8月4日）



優しい語り口の新谷美樹子さん

新谷美樹子さんのお話を聞いた。お話の中で、原爆ドームが最初物産陳列館だったころ、バームクーヘンが売られていたことがある、とか原子爆弾のニックネームは？とクイズを出したりと、子供たちにわかりやすいようにお話してくれた。広島に着き、最初の導入だったのでとても分かりやすく知識が入ってきた。

碑めぐり（8月5日）

斉藤さんというガイドさんに案内してもらおう。「昨日室内碑めぐりで聞いたかしら？」とガイドブックに書いていないことをたくさん教えてくれた。爆心地のすぐ隣、原爆ドームは鉄枠の残骸が生々しく建物が語っているようだった。斉藤さんは「こちらから爆風が吹いて・・・」と説明してくれた。

落ちてない、上空600mで炸裂したんだ、ということがうまくイメージできていなかった自分に少し驚く。放射状の閃光が目前に広がるようだった。

広島には古く広島城があり、ずっと軍の拠点だった。広島部隊はアジアや中国への侵攻も勇猛果敢。戦果を大いに挙げた部隊だったそうだ。なぜここに落とされたのか、少なからず原因があって結果があるということを考えていただきたい、と伝えてくれたのが印象に残った。



斉藤さん、とても歩くのが早い！



象徴となっている折り鶴「原爆の子の像」の前で、たくさんの方が新たに折り鶴をささげている姿が印象的だった。折り鶴＝平和＝原爆で亡くなった佐々木禎子さんの物語、と自分の世代では当然知っているが、息子は知らなかったようだ。学校で習わないのかと驚く。

平和記念公園の丹下建築を見られて感動した。原爆ドーム-平和都市記念碑-資料館-と一直線になっていてモニュメントというよりも、意味を持ってランドスケープデザインがなされたのだと納得だった。

近くで見ると記念碑に原爆ドームが収まっていたのに、離れるにつれ遠景になりゆくドームが飛び出してくる。地面の傾斜を使った丹下マジックだと斉藤さんが嬉しそうに教えてくれた。



丹下健三氏がコンペで勝ち取ったデザイン。計算されつくしていて圧巻

碑めぐりではないが、折り鶴タワーにて（8月6日）



爆心地 島内科は折り鶴タワーの12階から見えた。碑めぐりのとき「あの青い建物の横」と教えてもらったが、島内科自体は建物の影で見えなかったのだが、この上空かと見上げ、だいたいスカイツリーの高さで炸裂・・・当時の上空の閃光を想像した。

爆心地（島病院）の碑＊写真はネット引用



息子と折り鶴を折ったのもいい思い出。



折り鶴タワーから見下ろすと公園全体が見えてまた違った印象を持てる。

2、被爆の証言

山田寿美子さんのお話（8月4日）

壮絶なお話を聞き、原爆孤児として父母のいない悲しみ、差別のある世界への憎しみ、語るのもお辛いこと察した。それでも伝えなければという強い使命感を感じた。

被爆当時2歳の記憶はなく、原爆孤児として生き抜き、その後立派にソーシャルワーカーとして被爆者の苦しみに寄り添って仕事をされる様に感動した。

原爆がもたらす悲劇は、投下直後のことだけではない。深く根強く人々の人生を狂わせていく。そんな恐ろしさも実感した。



山田寿美子さん

被爆者の証言を聞ける機会も時とともに減ってくることだろう。やはり、証言というのは重みが違う。しかしながら、私たちは次世代に語り継いでいかななくてはならない。ということも強く感じた。どうか、まだまだお元気で、この経験を語り継いでいただきたい。

3、平和記念資料館 見学

(8月5日)



導入で「焦土と化した都市」の投影で、原爆が炸裂するさまをジオラマで可視化していて、とても衝撃的だった。太陽が落ちてきたような。一瞬にしてすべてを焼き尽くすと実感した。



遺品などを見ていると、語り掛けられているようで辛い。



新谷さんも触れていたお弁当箱。お昼にお弁当を食べることを楽しみにしていただろうに。

8月6日のこと、放射能、何年もたってから出てくる病気。GHQによる統制。誰も事実を分かっていなかった。原爆直後、広島から疎開先の兄弟にあてたハガキに「広島もちょこっとやられたけど大丈夫」というように書いてあって、悲しすぎる。

4、現在を生きる中で

私の夫の父は、東京大空襲を経験している。1945年3月10日、東京の門前仲町、深川に住んでいた義父は当時小学2年生だった。焼夷弾により町中が火事。兄弟は直前に疎開していて、自分も今度発つ、そんな時期だったようだ。幼いながらに隣人のお医者さんと逃げたそうで、走って逃げる中でお医者さんは左へ行く、「俺は右へいく」と別れたそうだ。義父は永代橋から隅田川に飛び込み命からがら火の手から逃げた。あわてて逃げる中、何が運命を分けたのか、次の日そのお医者さんは亡くなったと聞いた、とのことだ。

義父は88歳になり、今も元気になっているが、その経験を語るには老齡すぎて、だんだんと話が閉じていくのを感じる。

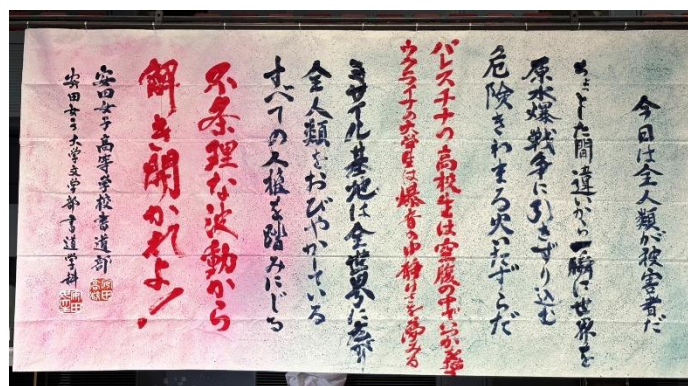
被爆の実相を語る人が少なくなってきた、と危機感を募らせながらも、それを語り継いでいなくてはという若い力も感じた。多くの人に知ってもらい、広島に来てもらい、感じてもらう。広島の人々の強い想いと熱意にあふれていた。

核兵器と人類は共存できない。戦争は二度と起こしてはならない。この想いを次の世代にも語り継いでいってほしい。

私も義父の話を伝えよう、と気持ちを新たにした。



東京大空襲の資料



安田女子高・大の書道パフォーマンス

虹の広場では、若い力を感じました。

平和活動を日々頑張っている子たちが文化的に表現している姿に希望が湧いてきます。スポーツも、芸術も、平和がなくてはできるものではない。辛い過去を決して忘れない。風化させてはならない。そういう意思を感じました。

おわりに

平和記念式典は、強烈な日差し、人いきれで熱気が渦巻いていて、しかしながら平和への祈りと鎮魂に満ちていました。初めて式典で黙とうすることができました。

嬉しいことに、小5の息子がしっかりと学びとり感じるものがあったようです。

私たちは日常を生きながら、情勢という大海のなかにいることを忘れがちです。政治や民意の渦にのまれてしまって、今なおアメリカの核の傘の下にいる事実。もっと私たちは自分のこととして考えなければならない。誰しもが戦争はしたくないのに、戦争がなくなる、いつの時代も。なぜか。次の世代の子供たちと話して考えていきたいと思いました。

多くの学びがあり、広島の方々の思いに寄り添うことができたように思います。この経験をぜひ周りの人に伝え、蝶の羽ばたきのように伝わっていつか大きな風になるような、そんな風に平和へとつながるといいなと思います。

この度の企画運営にあたり、多くの方々が携わってくださり、私たちは安全に予定通りに旅をすることができました。心から感謝申し上げます。一緒に旅をしてくださった皆様にもまた会って、この日のことを話したいです。本当にありがとうございました。

広島県知事 湯崎知事のスピーチでとても心に残ったところがあります。

「我々も決して諦めず、粘り強く、核兵器廃絶という光に向けて這い進み、人類の、地球の生と安全を勝ち取ろうではありませんか。」

這って進む。泥臭く力強い言葉です。私たちは広島を忘れてはならない。

ピースアクションinヒロシマ レポート

5年 樋口 奨



ピースアクションinヒロシマ 行くきっかけ

ある日夜ご飯を食べる準備をしているときに、お母さんがチラシを見せてくれた。そのチラシは、『ピースアクションinヒロシマ』のものであった。僕は広島や長崎に原爆が落ちたことを知っていたけど、場所や時間などをはっきりとは知らなかった。だからお母さん、が誘ってくれたのを迷わず「行きたい」と、答えた。
このレポートは広島で学んだ【平和】を子供新聞を参考にまとめたレポートだ

もくじ



室内での碑めぐり
勉強



碑めぐり



資料館見学



虹の広場

行って感じたこと
まとめ

室内碑めぐり

はじめに新谷さんは、
こう言った。昔は広島も栄えていた。そして平和
だった。
だけどたった一発で全部が壊れたと語る。
そんな核爆弾は地面ではなく、空中で炸裂したの
だ。空中で炸裂し、人々の体を焼き
建物を壊していったのだ。
新谷さんは、こんな地獄のような話を
次の世代に語るのが大切だと言ってくれた。



新谷美樹子さんの話

被爆者悲しみ胸に語る

山田寿美子さんは紙を僕らに配って話してく
れた。
2歳で親を亡くし親戚の家を転々とし、
そして苦しい生活を続け、「被ばく子」とい
じめられていたそう。
そして、山田寿美子さんは他の人を常に考え
られる人になってほしいと僕たちに言葉
を残してくれた。



山田寿美子さんの話

碑めぐり

さいとうガイドさんが、
ガイドしてくれたところ集



原爆の日の付近だったので、
とても多くの人があふれて
いました。さいとうさんは、
説明をしながら普段の広島
市内のことも話してくれま
した。ぜひまた違う日に、
来てほしいと言っていました。



原爆ドーム

建築物として世界
遺産登録された。
負の遺産



原爆の子の像

「これは僕らの叫びです
これは私たちの祈りです
世界に平和を築くための」

峠三吉の詩

ちちをかえせ
ははをかえせ
としよりをかえせ
こどもをかえせ
わたしをかえせ
わたしにつながるにんげ
んをかえせ
にんげんの にんげんの
よのあるかぎり
くずれぬへいわをかえせ
という詩がある。



広島平和都市記念碑

「安らかに眠っ
てください過ち
は繰り返しませ
ぬから」

平和の灯

核兵器がなくなるまで燃えつづける。



平和記念資料館



被爆後残った物は...

僕は「魂の叫び」の
ところがとても心に
残った。人々の実際
の叫びに悲しいを超
えて心が苦しくなっ
た。



虹のひろば合唱団



みんなの居場所 虹のひろば

高校生書道パフォーマンス

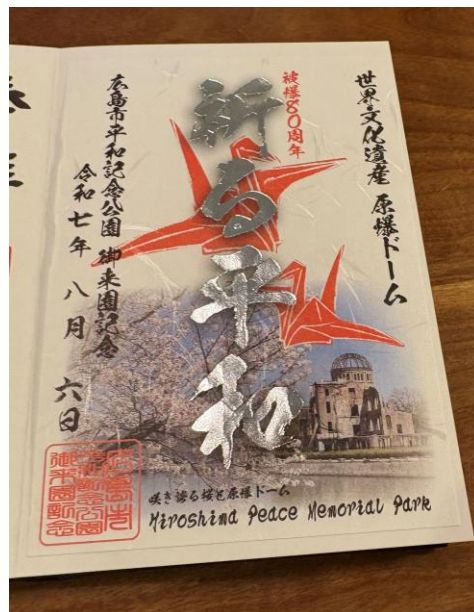


高校生の原爆を伝え聞いて描いた絵を見ました。ほかにも、新聞部の新聞の発表を見て聞いて、高校生の表現力に驚きました。



行って感じたこと　まとめ

ピースアクションinヒロシマに行ったことで核兵器が世界に広がっている現状に驚くと同時に、やっぱり核兵器はだめだと感じた。その一発でたくさんの人々が、悲しむことを深く考えなければならない。だからこそ、僕はレポートを書くだけじゃなくて学校やいろいろな人に伝えてつなげていくことが必要だと思った。これからも、日々【平和】について考えていこう。



ピースアクション in ヒロシマに参加して

木村 良子

原爆ドームの前に立った時、私の心はきゅっと苦しく締め付けられ、涙がこぼれそうになりました。

写真や映像で見たことはありましたが、被爆の惨禍を物語って建っているドームの姿、対岸には、大やけどをして苦しむおびただしい数の人々が水を求めて集まっていたという元安川を見た時に、今、私が立っているこの地の80年前の地獄のような姿を想像できたからです。

このような感情が沸いてくることは、想像していませんでしたので、実際に現地を見て感じられるものの大きさに驚きました。

また、1945年8月6日8時15分まで広島で暮らしていた人々のいつもの朝が、一瞬で奪われたことへの怒りも感じました。

奪われても良い命は一つありませんし、誰もが幸せに暮らす権利を持っているはずです。

私は帰宅後、久しぶりに日本国憲法の前文、9条、25条を読み返しました。改めて素晴らしい憲法だと感じましたが、今の日本はどこへ向かっているのだろうかと不安にもなりました。

唯一の被爆国である日本が、どうして核禁止条約を批准しないのか、核兵器

も戦争もない平和な世界をこの国はどう実現していくつもりなのか、見えなくなっているように感じました。

しかし、碑巡りガイドとして活動している方々、被爆証言をしてくださっている方々、虹のステージで原爆の絵を描いている高校生、書道で力強いメッセージを発信している大学生、他にも平和の実現のために活動している多くの人々を知ることができました。

また、平和祈念式典は白いテントの下の人々だけをテレビ映像から想像していましたが、実際には、平和記念公園には本当に多くの人々が参加し、平和への祈りを込めて黙祷する姿を目にしました。

海外の方も多く、翻訳アプリを使って真剣に聞く姿は、驚きもありました。

これらのことは、現地に行かなければ分からなかったことだと感じました。

私にできることは、関心を持ち続け知ること、そして、自分のこととして考え続けること。知ることがすべてのスタートであり、知ることが行動を生むと思います。

山田 寿美子さんが被爆の証言をしながら涙を流される姿を見て、苦しみは今もなお続いている、80年経過しようが、100年経過しようが決して癒されることのない苦しみなのだと感じました。

私、そして子供たちは被爆証言を直接聞くことのできる最後の世代になって

きています。この夏、私達親子は本当に貴重な経験をさせてもらったと感謝しています。

きっと、惇志が13歳の夏に感じたことは、彼の中に何かを残してくれたはずです。この夏の話、周りの友達に、そして彼が大人になった時、親になった時、この経験を次の世代に語ってくれたらと願います。

これまで、パルシステムは安心・安全な食材を購入できるとしか考えていませんでしたが、平和な社会づくりに貢献するという考えの基に、このような取り組みを行っていることを知り、ますますパルシステムが好きになりました。

最後に、この企画を計画、実現に向けてご尽力いただいたパルシステムの職員の方々に感謝します。

広島での3日間、いつも体調を気にかけてくださったり、話しかけてくださったり、とても気持ちよく過ごすことができました。

お世話になりました。本当ありがとうございました。

以 上

し	ま	る	庭	な	爆		き	両		と	念		に	さ		感	し		
て	た	の	環	く	弾	こ	ま	親	ま	平	公	そ	参	れ	私	じ	て	昔	
い	、	だ	境	、	に	こ	し	を	ず	和	園	の	加	た	は	ま	い	に	
る	被	と	で	被	よ	で	た	亡	、	祈	に	ッ	し	原	こ	し	た	も	
と	爆	い	虐	爆	っ	自		く	被	念	あ	ア	ま	爆	の	た	の	私	
涙	者	う	げ	に	て	分		し	爆	式	る	ー	し	に	夏	。	だ	た	
が	の	こ	ら	よ	体	が		て	の	の	碑	で	た	は	、		、	ち	
出	方	と	れ	っ	が	知		被	証	説	の	主		い	広		と	と	
て	は	で	る	て	不	っ		爆	言	明	説	に		と	島		い	同	
き	八	す	と	で	自	た		孤	で	・	・	被		そ	に		う	じ	
て	十		い	き	由	こ		児	は	広	島	爆		の	行		当	よ	
い	年		う	て	に	と		と	し	島	平	者		影	き		たり	う	
て	た		二	し	なる	は		な	ま	島	和	の		響	一		前	に	
、	っ		重	ま	苦	、		っ	し	平	記	証		を	九		の	人	
心	た		の	っ	し	被		た	た	念	資	言		学	四		こ	々	
の	今		苦	た	み	爆		人	人	料	料	や		ぶ	五		と	が	
傷	で		し	生	だ	し		の	話	館	資	平		ツ	年		を	い	
は	も		み	活	け	た		話	を		料	和		ア	に		強	て	
な	話		が	・	で	人		を	聴		館	記		ー	落		暮	暮	
か			あ	家		は		聴	し					と	と		ら	ら	

、

資料館の見学が一番考えさせられたもので	した。	ど一時間では見きれないほどの展示がありま	た、自転車や服などのものや被爆者の実話な	広島平和記念資料館では実際に使われてい	さに驚きました。	達が亡くなったと知り、予想以上の人数の多	この碑の話聞き、三四万九二四六人の人	々を指しています。	紙のものがあり、これは名前前がわからない方	十冊入っています。加えて一つの名簿には白	の氏名、年月日、年齢が書かれた名簿が百三	中の石室には爆弾によつて亡くなられた方々	この碑の屋根は、埴輪の家型になつており	爆死没者慰霊碑です。	そのなかで一番記憶に残っているのは、原	立ちを学びました。	の灯・原爆の子の像などを建てた目的や成り	次に平和祈念公園にある碑の説明では平和	なか治らないのだと思ひました。
---------------------	-----	----------------------	----------------------	---------------------	----------	----------------------	--------------------	-----------	-----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	---------------------	------------	---------------------	-----------	----------------------	---------------------	-----------------

、

ま	を		し	さ			触		う	実	が	帽	章	が	相		と	黒	し
し	言	式	た	ん	こ	最	れ	な	に	物	亡	子	で	生	手	同	が	い	た
た	っ	典	°	の	こ	後	る	の	感	も	く	と	し	ま	の	じ	多	雨	°
°	て	は		外	で	に	こ	で	情	見	な	小	か	れ	感	時	か	や	な
	い	全		国	は	平	と	、	や	た	っ	さ	知	る	情	代	っ	放	ぜ
	る	て		人	、	和	が	よ	風	時	た	な	る	前	に	に	た	射	な
	の	日		が	自	祈	で	り	景	に	と	頭	こ	の	触	生	か	能	ら
	か	本		来	分	念	き	鮮	を	は	知	骸	と	出	れ	き	ら	の	、
	、	語		て	が	式	ま	明	想	、	っ	骨	が	来	る	て	で	影	最
	わ	で		い	想	典	し	に	像	ま	た	と	で	事	こ	い	す	響	も
	か	行		た	像	を	た	被	す	る	お	三	き	だ	と	た	°	な	原
	ら	わ		こ	し	見	°	爆	る	で	父	輪	ま	と	が	ら		ど	爆
	な	れ		と	て	学		者	こ	、	さ	車	せ	、	で	、		の	の
	い	て		に	い	し		た	と	今	ん	を	ん	普	き	会		知	悲
	と	い		と	た	ま		ち	が	話	の	見	°	通	ま	話		ら	惨
	心	る		も	た	し		の	で	し	実	つ	焼	は	す	す		な	さ
	配	の		驚	も	た		悲	ま	て	話	け	け	写	が	る		か	を
	に	で		き	た	°		し	し	い	を	、	跡	真	、	こ		っ	感
	な	、		ま	く			み	し	る	読	子	か	や	自	と		た	じ
	り	何						に	た	よ	み	供	ら	文	分	で		こ	、

。

、

、

は	そ	た	暮	や	ま	感	爆	の	被		り	な	り	爆		良	翻	れ	
と	の	。	ら	記	ま	じ	し	で	爆	被	す	影	、	に	広	い	訳	て	そ
て	こ		し	録	た	ま	た	は	の	爆	る	響	後	よ	島	こ	し	い	れ
も	と		が	を	、	し	山	な	影	し	二	と	遺	つ	に	と	て	る	で
良	を		一	資	当	た	田	く	響	た	つ	し	症	て	行	だ	内	し	も
い	多		人	料	時	。	寿	、	を	人	の	て	に	身	っ	と	容	、	、
こ	く		一	館	生		美	助	知	と	苦	い	な	体	て	思	を	前	多
と	の		人	で	き		子	け	っ	ほ	し	じ	っ	的	学	い	理	に	の
だ	外		に	見	て		さ	て	て	同	み	め	た	な	ん	ま	解	い	国
と	国		あ	て	い		ん	や	い	じ	が	ら	す	影	だ	し	し	た	か
思	人		っ	、	た		の	る	と	世	あ	れ	る	響	こ	。	う	外	ら
い	が		た	私	人		証	べ	思	代	こ	た	苦	と	を		と	国	式
ま	学		の	た	が		言	き	う	で	と	り	し	し	ま		し	人	典
し	ん		だ	ち	使		も	だ	の	生	を	、	み	、	と		て	は	を
た	で		と	と	っ		聞	と	で	き	知	虐	と	亡	め		い	ス	見
。	い		実	変	て		い	、	い	て	り	げ	、	く	る		て	マ	に
	る		感	わ	い		て	二	じ	、	ま	ら	精	な	と		と	ホ	来
	こ		し	ら	た		、	歳	め	た	し	れ	神	っ	、		て	で	て
	と		し	ない	の		強	で	る	ら	た	た	的	た	被		も	同	く

